

「建交労とうきょう」はいつでもみなさまからの記事や写真を待っています。

（メール）tohonbukenkouro@smile.odn.ne.jp  
ホームページ  
http://www.kenkouro.com/

建交労

# おとうきょう

建交労東京都本部機関紙

発行所  
全日本建設交通一般労働組合東京都本部  
〒135-0048  
江東区門前仲町1-20-3  
東京建設自労会館7階  
電話 03 (3820)8644(代)  
fax 03 (3820)8646  
編集発行人 松田 隆浩  
1部15円組合費に含まれる(〒60円)

## 5月1日 第95回 中央メーデー 三多摩メーデー開催



代々木公園サッカー・ラグビー場に1万2千人が集いました



建交労から53名の仲間が参加しました



神宮外苑再開発にまつてみどりの森と青空をまもろう

5月1日(水)、第95回中央メーデーが代々木公園サッカー・ラグビー場にて行われました。参加者数は全体で1万2千人、建交労参加者は53人でした。  
メインスローガンは、「国は能登半島地震の被災者支援に全力を」「賃金が下がり続ける国から上がる国へ」「物価上昇を上回る大幅賃上げを勝ち取ろう」「最低賃金の全国一律最賃法制化」「今すぐ時給1500円以上を実現し1700円をめざそう」「大企業は内部留保を労働者・国民へ還元せよ」「国民主権と人権を守り、ジェンダー平等社会の実現と多様性の尊重」「正規と非正規の賃金格差をなくし均等待遇の獲得」

「安定した雇用と、働くルールを確立し、ディーセントワークを実現しよう」「過労死をなくし、長時間過密労働の是正と人手不足の解消を」「賃下げなしの労働時間短縮の実現」などです。  
小畑雅子全労連議長は主催者あいさつの中で「全ての労働者の賃上げを求め、ストライキも構えつつ粘り強くたたかい続ける全国の地域の仲間へ、敬意を表します。能登半島地震について、暮らしや命を維持することが最優先の状態にある。被災者の当面の暮らしの保障や、避難の形態を問わず、期限を切らない支援など課題は山積みとなっており、政府と石川県に、万全の支援を継続することを強く求めたい。また、政府が財界と一体となって進める労働法

制改悪、とりわけ労働時間を軸とする改悪について、厚生労働省の労働基準関係法制研究会において、最低賃金は労働基準法で定められているが、基準に満たない労働条件であっても、労使自治で適用除外とする考えもあるという議論がなされている。これは経団連が今年1月に発表した、労使自治を軸とした労働法制に関する提言と全く同じ方向のものであり、労働組合として、反撃の体制を整えていくことを呼びかけたい。」などと訴えました。  
集会終了後、雨が降る中ではありましたが、青山コースをデモ行進し、メーデースローガンや労働者の要求をアピールしました。

【書記長 遠藤 晃】

### 働くものの団結で生活と権利をまもろう 第95回三多摩メーデー

「変えるのは私たちひとりひとりが大事にされる社会へ働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」をテーマに、第95回三多摩メーデーが開催され、激しく雨が降る井の頭公園西園競技場に三多摩地域から1300名の仲間が集まりました。三多摩労連や三多摩春闘共闘などたたかう労働組合の仲間と組織する三多摩メーデー実行委員会が準備をすすめて、バス関連支部（京王新労組）の仲間が朝早くから会場設営など協力しました。「物価高騰の中、実質賃金は23ヶ月下がりに続いている、今こそ賃金の大幅アップ、今すぐ全国一律最賃1500円、目指せ1700円！」戸久世実行委員長は政府や財界に怒りを込めて訴えました。集会後、吹き付ける雨風に負けず、シユプレヒコール挙げながらコピス吉祥寺北側までパレードしました。建交労からはバス関連支部（京王新労組）、三多摩支部（鷹分会、八王子地域労組分会）から参加しています。参加した仲間の皆さん、雨の中大変お疲れ様でした！

【執行委員 笹原 和樹】



在日朝鮮女性コーラス「ヘバラギ」民舞



井の頭公園西園競技場に1300人の仲間が集まりました



建交労三多摩地区協議会の仲間が結集しました



### 「武力では平和はつくりえない」「取り戻そう憲法をいかす政治を」 ～2024憲法大集会～

憲法施行から77年を迎えた5月3日、憲法集会在江東区の有明防災公園で開催され、5月晴れの中3万2千人が参加し、建交労からは16人が結集しました。主催者の総がかり行動実行委員会共同代表小田川義一さんが「岸田政権による大軍拡、日米軍事一体化など憲法を逸脱した暴走に対し、今日を起点に憲法を守る運動のうねりを大きくしよう。」と訴えました。スピー

チでは、伊藤塾塾長の伊藤真弁護士が「憲法をつくった目的は2つ。1つは日本中に自由と人権をもたらすため。2つ目は、2度と政府に戦争させないため。これまで戦争をしない国として、憲法に守られてきた。次世代にこの良き憲法を引き継ぐことが私たちの責任だ。」と発言されました。新外交イニシアティブ(ND)代表・猿田佐世弁護士は「岸田首相は4月にバイデン大統領と日米首脳会談を開き、敵基地攻撃能力の保有や軍事費2倍化等の内容で『未来のためのグローバル・パートナー』になると約束した。平和のための

外交努力が必要。」と訴えました。自衛隊が米軍の指揮下で戦争に参加する危険があり、このような道は、戦争放棄を誓った日本国憲法と相容れません。戦争の準備ではなく憲法を生かすことが求められています。

【常任執行委員 江部 明子】



江東区有明防災公園で開催されました  
集会後会場コースをデモ行進しました

2024年原水爆禁止国民平和  
大行進 東京コース5月6日  
(月)～7日(火)

核兵器のない世界、非核平和の日本の実現を目指して、今年も原水爆禁止国民平和大行進が開催されました。1958年6月「核武装阻止・民主主義擁護」のために、数名の若者、宗教者、被爆者が、広島市の平和公園から原水爆禁止世界大会が開催される東京にむけて雨の日も風の日も夏の暑さの中千キロの道のりを歩き通したのが始まりです。初日、江東区夢の島公園・第5福童丸展示会館前で開催式が行われ、建交労東京都本部が

ら建築設計支部いしずえ分会や東部支部の仲間が結集し、日比谷公会堂前まで行進しました。翌日は、港区立芝公園平和の灯前から多摩川六郷土手公園まで進み、神奈川の仲間にも引継ぎました。引渡し集会以て挨拶した神奈川原水協笠木理事長は「今、平和のタスキと横断幕をしっかりと受け取った。今年度は大きな節目、来年は広島・長崎被爆80年。今世界で起こっている2つの戦争、ガザの悲劇、ウクライナの悲劇を1日も早く止める必要がある。日本政府を核兵器禁止条約に参加させるため大きなう



5月6日(月)江東区夢の島公園から日比谷公園まで行進しました

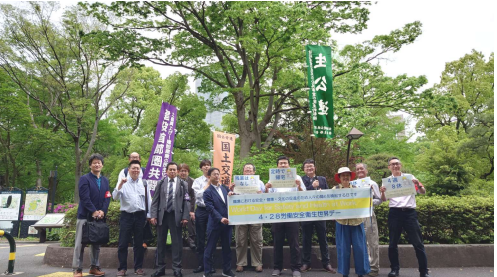
ねりをつくっていきましょう。子供達の明るい未来のため今が頑張り時だ。全力で平和行進を成功させ世界大会に繋げよう。」と訴えました。行進は広島を目指し8月まで続きます。

【執行委員 笹原 和樹】

### 建設産業における労働安全衛生行政の強化を求めて

#### 4・28労働安全衛生世界デー 厚労省交渉

労働安全衛生世界デーの取組みが世界各地で広がる中、建設産業における労働安全衛生行政の強化や国民本位の公共事業を目指し活動する生活関連公共事業推進連絡会議(生公連)は、働くもののいのちと健康を守る全国センター(いの健)と共同で、厚労省前宣伝と要請行動に取組みました。国土交通省の組合をはじめ、



厚労省に対しアスベスト被害の早期解決等訴えました

#### 組合掲示板

- 6月 5日(水) 18時半～都本部主催 世界環境デー宣伝行動/赤羽駅西口
- 6月 7日(金) 13時半～9日(日) 11時半迄～建交労学校/伊豆長岡ホテル・サンバレー富士見
- 6月10日(月) 10時半～東京労働局交渉/東京労働局11階(九段下駅)
- 6月15日(土) 13時半～都本部主催 組織拡大検討委員会/都本部7階会議室
- 6月23日(日) 14時～建交労東京学校/東京地評ラパスホール(大塚駅)

東京土建や建交労などの仲間が集い、建設産業に関わる労働者の実態の紹介と改善を求めました。いの健の岡村事務局長は「能登半島地震の復旧工事よりも万博を優先するのは間違いだ。建設労働者の長時間労働を無くす、賃金を上げる等、人間らしい働き方が出来るような対策を厚労省は今直ぐ打つべき。」と訴えました。

【全国建設・関連部会 事務局長 笹原 和樹】

第9期建交労東京学校第1回ジェンダー平等について  
5月12日(日) 第9期建交労東京学校第1回目「現代におけるジェンダー平等と労働組合の役割」をリモート併用で開催しました。講師の東京学習協江口健志常任理事は、財界主導で男性には長時間労働をさせ、女性に家庭でのケア労働を強いて来た経緯や、新自由主義により賃金を抑制し、女性が働きやすい環境を整えず、子育てを自己責任に押し付ける社会構造を指摘しました。参加者からは「大企業の利潤第一主義により男性も女性もさらに賃金が低く抑えられている。経営者の考え方

を変えてもらいたい。」「現代のジェンダー問題は戦後日本社会が作り上げたものだと言った。人が作り上げた構造であり思い込まされている部分もあると感じた。」「少しずつ個人の認識を変える事が世の中全体の風潮を変える事に繋がるのではないか。」「女性の待遇改善が男性の待遇改善にも繋がるとわかった。」「普段、閉鎖的で古い体質の職場環境にいるため視野が広がった。」「労働組合の運動が男性や正社員中心である限りジェンダー平等の前進は困難と感じる」などの感想が寄せられました。「納期がある仕事では就労時間に制限のある女性を配置出来



講師の東京学習協 江口 健志 常任理事

【執行委員 笹原 和樹】

る程余裕が無い。どうしたら良いか。」「質問に対し、江口さんは「現実的な課題はまだ山積しており社会全体が変わる必要がある。一緒に考えながら前進しましょう。」「とお話されました。